

令和 3 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	1		学 校 名		県立高萩高等学校					課 程		定時制		学校長名		清 水 秀 一			
教 頭 名	山 下 則 雄				長 山 祐 司									事務長名		小 松 壮			
教職員数	教諭	28	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	3	非常勤 講師	14	実習教諭, 実習 講師, 実習助手	1	事 務 職 員	3	技術職 員等	4	計	54			
生 徒 数	学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合計クラス数							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女								
	普 通 科	47	25	39	21	41	25	6	1	133	72	12							

2 目指す学校像

(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校	(2) 一人ひとりの多様性を認め、個に応じた支援をする学校
(3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校	(4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校
(5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校	

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践を目指し、授業強化週間での相互授業観察による公開授業等を通して、学習指導法の工夫・改善に取り組んでいる。また、個に応じた適切な支援を行い、生徒一人ひとりが主体的に学習する態度を養うとともに、基礎学力の向上に努めている。	・『わかる授業・生徒への対応の工夫』の共通理解の深化と公開授業やICT機器の活用による学習指導法の工夫改善 ・観点別学習評価と生徒個々の達成度による評価を活用した指導と評価の一体化の推進、及び授業改善
進路指導	生徒一人ひとりの希望に応じた適切な進路指導と、早期に進路目標を決定させ、目的を持った充実した学校生活が送れるよう生徒育成に取り組んでいる。そのため、生徒面談を定期的に行い、進路意識を高めるとともに、適正な進路選択ができるよう指導している。	・将来を見通したキャリア教育の充実 ・きめ細かなキャリアガイダンスと進路情報の提供による進路意識の向上 ・社会人・職業人として生きがいを持って生きていく生徒の育成
生徒指導	各月1週間を見守り・声かけ強化(フレックス・マナーアップ)週間と位置づけ、全職員で始業前・終業後声かけなどの指導を行い、生徒事故の未然防止、制服の着こなし、心身の健康状況把握等、安全・安心確保に取り組んでいる。また、生徒とのコミュニケーションをしっかりととり、カウンセラー等や必要に応じて関係機関との連携を密に図り、生徒の悩みや相談に親身になって対応し、問題の早期発見に努めている。	・個別面談の充実による生徒理解の深化と信頼関係の構築 ・学校カウンセリング体制の充実・キャンパスエイドの活用、及び心の居場所の確保 ・安心して学べる環境と居場所の構築・充実 ・万全の想定により日頃から業務効率化(働き方改革)に取り組む
特別活動	運動部・文化部とも人数が少ない中で活発に活動している。生徒が活躍し、自己達成感・自己存在が高められるよう、部活動参加を強く勧めている。生徒会役員やJRC部・清美委員などを中心にボランティア活動を実施し、地域社会への貢献に寄与している。	・地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の成長を促進 ・生徒の自主性を育み生徒会活動の活性化 ・部活動加入率の向上と各種行事の活性化
働き方改革	本校生徒の豊かな学びを保证するため、独自性の高い教育活動を展開することで、生徒・保護者から満足度で高い評価を受けている。一方、独自性・個別性の高い事案に対処するため、勤務時間の削減が進まない一面がある。	・業務負荷の適正化や従来の業務の見直し、学校行事精選、情報や教材資料等の共有化等による業務改善と勤務時間の削減 ・管理職からの指導・援助に基づく個々の業務改善の促進

4 中期的目標

- (1) ICT機器を積極的に活用し、『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践と生徒一人ひとりに応じた学習指導法の工夫改善に努める。
- (2) 生徒一人ひとりが主体的に学習する態度を養うとともに、基礎学力の向上に努める。
- (3) 個別面談の充実による生徒理解に努め、生徒との信頼関係を構築に努める。
- (4) きめ細かなキャリアガイダンス・進路情報の提供による進路意識の向上に努める。
- (5) 地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の成長の促進に努める。
- (6) 学校カウンセリング体制の充実・キャンパスエイドの活用とともに、心の居場所の確保に努める。
- (7) 本校のこれまでのノウハウの蓄積を活かし、校内組織や教育活動、業務内容及び進行手続きの改善等に取り組むことで「働き方改革」を一層推進し、教職員が健康的で協働性が高く、やり甲斐をもって職務を遂行できる職場環境を整え、本校生徒の学びをより豊かにすることに努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
(1) 基礎学力の定着に基づく、確かな学力を育む教育の推進	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践による授業公開を通して、学習指導法の工夫改善を図り「わかる授業」「考えさせる授業」「課題の発見・解決に繋げる授業」の充実に努める。加えて、1人1台のICT端末を有効活用し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、基礎・基本の定着の向上や、主体的・意欲的に学ぶ態度の育成に努める。
(2) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな支援体制・特別活動の推進	個別面談の充実を図り、生徒理解に努め生徒との強い信頼関係を構築する。また、学校カウンセリング体制の充実を図り、心の居場所の確保とともに安心して学べる環境の構築・充実に努める。 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、特別活動や部活動の充実を図り、さらにキャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を味わい、思いやりの心、規範意識、公共心を醸成し、心豊かな人間性の育成に努める。
(3) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かなキャリア教育の推進	将来を見通したキャリア教育の視点に立ち、各年次段階に応じたきめ細かなキャリアガイダンスや進路情報の提供を通して進路意識の向上を図る。また、生徒一人ひとりに望ましい勤労観・職業観を育み、キャリアパスポートを活用して、将来、社会人・職業人として生き甲斐を持って生きていく生徒の育成に努める。
(4) 地域に貢献し、地域と連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進	積極的な学校公開や科目履修生の受入、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の健やかな成長を図る。また、ホームページや各種広報活動を通して、フレックススクールとしての特色ある教育活動への理解と協力を得るように努める。
(5) 校務の精選とPDCAサイクルによる学校運営の改善、及び働き方改革の推進	本校の教育活動及び業務について、生徒の自立支援の有効性の観点から見直しを進め、実施可能な事案から必要性の低い業務は削減・縮減し、教職員のマンパワーを必要な業務に注力し、PDCAサイクルを用いて改善を図り、より効果的な学校運営に取り組む。また、校務・情報の共有化と視覚化により、業務分担を明確化し、教職員の勤務時間と業務負担の適正化に努めるとともに、生徒の学びをより豊かなものにできるよう努め、本校の働き方改革を推進する。